

# 2007年度 第1回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2007年4月10日(火) 午後7時15分～9時  
開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室  
出席委員：阿部靖子、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、安岡厚子、柳澤正樹  
山下恭子、渡辺美恵<以上8名、敬称略、あいうえお順>  
欠席委員：飯塚 睦<以上1名、敬称略>  
事務局：齊藤 睦(地域福祉課長)、中澤一郎(主事)、今林朝香(コーディネーター)  
平田典子(コーディネーター)、丸木 敦(係長)

## 配布資料

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(3月)
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告
- 資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(4月)
- 資料 4：2007年度 災害時のシステムづくり専門委員会委員名簿
- 資料 5：2006年度第11回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
- 資料 6：2007年度西東京ボランティア・市民活動センター事業執行計画(案)
- 資料 7：2007年度新規登録ボランティア数の目標値の設定について(案)
- 資料 8：ボランティアセンターニュース(仮称)発行(案)
- 資料 9：西東京ボランティア・市民活動センターがめざすもの
- 資料 10：西東京ボランティア・市民活動センターを取り巻く状況の分析
- 資料 11：西東京ボランティア・市民活動センターの今後の具体的取り組み(案)

委員長：委員一人から欠席の連絡があった。新年度の第1回目の会議よろしくお願ひします。追加資料が3点ある。今日から学習会を行うのでよろしくお願ひします。まずは報告事項から始める。

## 1. 報 告 事 項

### (1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

#### 3月期の業務報告

事務局より、資料1に基づき3月期に行われた主な事業についての業務報告が行われた。

委員長：何か質問はあるか。

質問、意見なく、3月期の業務報告を終了する。

#### 3月期のコーディネート状況報告

委員長：では続いてコーディネート状況の報告にうつりたい。

事務局より、資料2に基づき3月期のコーディネート状況の報告が行われた。

委員長：質問等あるか。

質問、意見なく、3月期のコーディネート状況の報告を終了する。

#### 4月の業務予定

委員長：続いて、4月の事業予定にうつる。

事務局より、資料3に基づき4月期の業務予定についての報告がある。

委員長：質問や意見はあるか。

質問、意見なく、以上をもって4月期の業務予定の報告を終了する。

#### (2).災害時のシステムづくり専門委員会報告

事務局より2007年度災害時のシステムづくり専門委員会（以下、災害専門委員会）委員の就任承諾状況の報告がある。

委員長：質問はあるか。

質問、意見なく以上をもって災害専門委員会の委員就任承諾状況の報告を終了する。

#### (3).理事会報告

委員長：3月27日の理事会では、組織変更に伴う定款変更、事務局長の雇用延長規則の制定、2007年度事業計画、予算の審議が行われた。4月2日に開催された理事会では会長、副会長、常務理事、担当理事が互選された。ボランティア・市民活動センター担当理事として私が選任された。社会福祉協議会全体の2007年度事業計画と予算は閲覧できると思う。

理事会報告に対して質問、意見なく、以上をもって3月27日、4月2日に開催された理事会の報告を終了する。

## 2.学 習 会

### 特定非営利活動法人びゅあの活動について

#### 【委員（発表者）からの話】

びゅあは障がい者の生活支援を草の根的に、できることを行っている団体。障がい者の水泳教室を行うようになって2年目になる。最近になってようやく学校の水泳教室のような形になってきた。西東京市スポーツセンターには身体を温める部屋があって、水泳をしていて、子どもの中にはそこから出てこなかったり、トイレに行ったまま戻って来ない人もいる。そういう状況を見ると、水泳が嫌いなのかなあと思うが、そうでもないようで、逆に水泳がとても好きなようだ。

以前、サマーランドに行った時にじっと固まってしまう子がいたが、それはなぜなのだろうと考えていたが、ふと気づくことがあった。それはサマーランドではものすごく人が大勢いて、その子にとっては、人とぶつかることがとてもストレスになっていたのではないかということによって気づいた。じっと固まって動かなくなってしまっていたのは、そういうストレスと戦っている姿なのだということがようやくわかったような気がした。

トイレに行ったまま戻らなかったり、暖房室から出てこなかった子が1年くらい経つとそういうこ

とがなくなった。

自分もサマーランドでの混み方を見るとうんざりしてしまうが、その子もそういうことだったのだと思えるようになった。障がいのある人たちは、克服という薄皮を何重にも身に着けている状況なのではないかと思う。障がいのある人は頑固だと思っていたが、それは気分の基であって、頑固という見方は誤解なのではないかと思うようになった。

普通、水泳は専門的にはクロールから教わるが、ぴゅあに来てくれる先生は、その人に適した泳ぎ方から教えてくれている。それがとても新鮮だった。その先生は水が好きならプールが好き、水泳が好き、というようになるように教えてくれている。子育てに通じるような教え方をしてくれている。私は障がい者を支援するNPO法人を運営しているが、自分が学ばせてもらっている気がする。

### 【質問・意見交換】

委員：一人を観察していることはとても素晴らしいことだと思う。その子がストレスに打ち勝った時に、それに対してその子にどのようにそれを伝えたのか。

発表者：特に伝えてはいないが、その子がかんばっている姿に拍手を送っていた。

委員：子育てと同じということだったが、うまくできれば褒めたりする。そういうことではないのかと思った。

発表者：日々そのようなことの繰り返しで一つのメニューができれば褒め、気分を盛り上げるようにしてきた。

委員：障がいのある人は、表現する力を持っていてもなかなかそれをまわりの人に伝えられないということがあろうと思うが、病名でくくってしまい、できないものと決めつけてしまう。でも人それぞれで、まわりの人に伝えられる人と、それが苦手な人がいるのと同じなのではないかと思う。今の話を聞いて表現できない、言語化できない人を障がい者とくくらないようにすることが必要だと思った。

委員：区分け、区別してしまう社会の中で、認知症の人は表現することが上手にできないだけに、まわりの人たちができないと決めつけてしまうと、相手もそれを映し出してしまつて行動に現れてくる。そういう意味では共通していると感じた。

委員：プールで固まってしまう状態であったのが、積極的に関わるようになったきっかけは何だったのだろうか。

発表者：指導者も試行錯誤で遊びを取り入れたりしてやってくれていたが、気づいたら積極的になっていた。積み重ねではないかと思う。

委員：一つのきっかけで突然、一気に変わることがあるということを知ることがそれまでの積み重ねがあるのだろうか。

委員長：ありがとうございました。これで学習会を終了して次の審議事項にうつりたい。

## 3. 審 議 事 項

### (1). 2006年度第11回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料5により、第11回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員長：何か修正等はあるか。

修正、削除、追加等の意見なく、2006年度第11回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とすることを承認した。

### (2). 2007年度事業執行計画について

事務局より、資料6、7に基づき、2007年度事業の執行計画について、および新規ボランティア登録者数の目標値の設定についての提案がある。

委員長：事務局から執行計画の提案があったが、全体の執行計画について、新規登録者数の目標値について、都立高校における奉仕活動の義務化についての3つに分けて検討したい。

委員長：まず最初に執行計画の全体について意見を出してほしい。はじめの一步手前講座 5/15～5/17 とあるが宿泊で実施するのか。

事務局：宿泊ではなく3日間連続という意味で表記した。

委員：ブログの更新は4月だけなのか。

事務局：随時行う。8月には市民活動団体状況調査の結果を掲載する予定になっている。

委員：ブログを更新した時に mixi にもその旨掲載してほしい。

事務局：そのようにする。

異議無く、2007年度の事業執行計画について承認された。

委員長：執行計画についての意見が他に無ければ、新規ボランティア登録者数の目標値について検討したい。

委員：登録をやめる人はどれくらいいるのか。

事務局：毎年ボランティア登録者総数では横ばいの状態になっている。

委員長：登録したけれども活動をしていない人もいるのではないかと。新規登録者が多ければ多いほどよいと思うが、その中身も考えることが必要で、たとえば登録者を対象にアンケート調査を行い、登録してどうだったのか、活動を紹介されたのかなどを把握する必要があるのではないかと。

事務局：2006年度上半期では、活動を紹介した登録者は半数までではない。

委員：職員が目標値を設定して努力しようということなのか、主語は誰なのか。

事務局：職員が目標値の達成に向けて努力しようというもの。

委員長：2006年度のファーストステップ講座、入門講座の修了者が2006年度中に登録していたとしたら2006年度の新規登録者は何人になるのか。

事務局：100名弱だと思う。

委員：団塊の世代を見越しての講座を行ったが、その受講者にボランティア・市民活動センターの登録者が3人いた。その人が言うにはどのような活動をしたらよいかわからないということだった。そういう人たちへのフォローをする必要があるのではないかと。

委員：定年を控えている人たちや定年になった人たちは、ボランティア活動よりも仕事をしたいという人が増えてきている。ボランティア活動も登録後にすぐに活動できるように活動を紹介しないと気持ちが萎えるのではないかと。活動の場となっている施設などに対する営業的な取り組みが必要なのではないかと。

委員長：ボランティアを依頼する側のニーズはどのようなのか。継続的なものと、単発的なものとの分けをしていくことも必要ではないかと。

委員：ニーズに応えられていない活動は何か。

事務局：施設でのプログラム支援などの継続的な長期的な活動には紹介ができていない現状がある。

以上の意見を参考にしながら、事務局が提案したボランティアの新規登録者数の目標値の実現に向けて努力していくことが承認された。

事務局より、都立高校における奉仕活動の義務化に関しての動向について報告がある。

委員長：続いて都立高校での奉仕活動の義務化についてだが、ボランティア・市民活動センターは資料中のコーディネーターにはならないのか。

事務局：2007年度はコーディネーターにはならない。しかし、その機能は果たすことになる。

委員：事務局の説明では「支援コーディネーター」と言い、資料では単に「コーディネーター」となっているが、どちらが正しいのか。

事務局：「支援コーディネーター」が正しい。

委員長：予算はどうなるのか。

事務局：2007年度はコーディネーターという位置づけにはならないので、東京都からのコーディネートに関する経費は出ないが、たとえばボランティア・市民活動センターの職員が都立高

校に講師として行った場合には、講師料は出ると思う。

事務局：今日、資料を配布し説明、報告したのは、西東京市内の都立高校2校が東京都教育委員会に対してコーディネーターを要望していることがわかったために状況報告をした。

委員長：ボランティア活動とは、という点をしっかりと生徒達に伝えていってほしい。初めての取り組みなので逐次報告をしてほしい。

以上をもって2007年度事業の執行計画についての審議を終了する。

### (3). ボランティアセンターニュース（仮称）の発行について

事務局より資料8に基づき、ボランティアセンターニュースの発行（案）が示され、提案がある。

委員：センターニュースはカラー印刷にするのか。

事務局：予算額では1色刷りとなっている。

委員：いろいろな活動を紹介するとのことだが、自宅を高齢者等に開放している人もいる。そういう活動を紹介していくこともよいのではないか。

委員：シンボルマークになっている気球のイラストを活用するとあるが、この気球に名前をつけたり、立体的に使ってはどうか。もっといろいろな場面で工夫して使ってほしい。

委員：運営委員会がボランティア・市民活動センターを運営しているということを掲載したいとのことだったが、市民が運営委員会のことを知りたいのかどうか。市民が本当に知りたいことは何かをもっと考えてはどうか。

委員長：ボランティア・市民活動センターのPRは4面に移したほうがよいのではないか。紙面のデザインは誰がするのか。

事務局：実習生として来る学生に手伝ってもらいたいと考えている。

委員長：プロにボランティア活動でお願いしたほうがよいのではないか。

委員：市民の声を聞きながらやってもよいと思う。

委員：ボランティア・市民活動センターの今の弱点をQ&Aにして載せてはどうか。

委員長：雰囲気はどうか。やわらかい感じがよいのか、その逆なのか。また、対象者を明確にするとよい。

委員長：目からうろこ的な市民活動をたくさん載せたほうがよい。ボランティア保険の紹介は省略してよいのではないか。

委員：ボランティア・市民活動センターとしての視点を明確にして項目立てをしたほうがよいと思う。

委員長：では、以上の意見を踏まえて次回運営委員会に案を再度出してほしい。

以上をもって、ボランティアセンターニュース（仮称）についての本日の審議を終了する。

### (4). 事業の体系化について

委員長：今日は時間がないので、あらためて検討することにしたい。次回運営委員会には、今日配布されている資料をそれぞれが持参してほしい。

以上をもって、2007年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。